

取締役会実効性評価サマリ

取締役会の実効性評価を毎期実施し、前期の評価で認識された課題への取り組みを確認するとともに、来期に向けた課題を抽出し、取締役会実効性向上のPDCAサイクルを重視しています。2020年3月期の取締役会の実効性評価の結果を踏まえ、取締役会および取締役会事務局は、2021年3月期、以下の点に取り組みました。

2020年3月期実効性評価結果における課題認識	取り組み内容	2021年3月期アンケートでの評価
取締役会運営上の対応の更なる向上	<ul style="list-style-type: none"> 重要案件の事前BF時間延長(30分→45分) 合宿を伴わないFDを2回実施。 減損案件についてのキャッシュフロー・IRR推移含む取締役会資料における情報提供の充実。 取締役会承認案件についての進捗報告の充実等。 	大多数(社外役員も大多数)が肯定的に評価。前期より改善と評価。事前BFが充実化したとの意見あり。
全体戦略の議論における取締役会実効性の更なる向上	FDにて「ESG及び当社Materialityを勘案した持続的な収益成長戦略」、「DX戦略」、「Mitsui Engagement Survey」をテーマに2回実施。	大多数(社外役員も大多数)が肯定的に評価。前期より改善と評価。巨視的なテーマを討議する上でFDが本年度も有効だったとの意見、社会環境変化の中でより踏み込んだ議論が実施されたとの意見あり。
諮問委員会の役割期待の明確化	ガバナンス委員会・指名委員会・報酬委員会夫々の機能を整理し、役割期待を新たに設定する形で「三井物産コーポレート・ガバナンス及び内部統制原則」並びに「取締役会の諮問委員会に関する内規」を改正。	大多数(社外役員も大多数)が肯定的に評価。前期より改善と評価。諮問委員会の役割期待が図られたとの意見あり。

▶ 2021年3月期の実効性評価

アンケート結果を踏まえ、2021年2月開催の社外役員会議・ガバナンス委員会、2021年3月開催の経営会議での議論を経て、2021年4月開催の取締役会で決議しました。

自己評価

2021年1月実施
取締役14名・監査役5名

設問ごとに
5段階評価＋
前期との比較評価＋
コメント

評価結果

- ① 昨年の以下課題に夫々対応。
 - 「取締役会運営上の対応の更なる向上」：事前BFが充実化、合宿を伴わないFDを2回実施、減損案件についてのキャッシュフロー・IRR推移を含む取締役会資料における情報提供の充実、取締役会承認後案件についての進捗報告の充実等。
 - 「全体戦略の議論における取締役会実効性の更なる向上」：FDを2回実施し、巨視的なテーマを討議され、社会環境変化の中でより踏み込んだ議論を実施。
 - 「諮問委員会の役割期待の明確化」：諮問委員会の役割期待の明確化が規程改正により図られた。
- ② 取締役会の構成：江川取締役就任により社外役員における多様性が向上。
- ③ 取締役会の運営状況：取締役会事務局による早期の資料送付等、情報提供の質が向上。
- ④ 丁寧な事前BFでの説明・時間を確保した当日審議の実施が行われ、コーポレートガバナンスを強く意識している。
- ⑤ コロナ禍にあって感染予防に十分配慮した運営が取られ、取締役会では自由闊達な議論が行われている。

更なる実効性向上に向けて

最適な取締役の全体数・社内外比率・社内取締役数・機関設計に関する継続的検討

- 他社動向も踏まえつつ、最適な取締役の全体数・社内外比率・社内取締役数、及び機関設計に関し、ガバナンス委員会を中心に継続的審議・検討を行う。

2021年3月期の取締役会実効性評価については、自己評価を実施

上記の内容を総括した結果、当社取締役会は、2021年3月期の取締役会の実効性は適切に確保されていると判断